

# 社会保障研究所日誌 (昭和57. 4～昭和58. 3)

昭和 57. 4. 20 定例役員会開催 (第 177 回)

4. 22 研究課題Ⅰ 西欧諸国におけるソーシャル・ポリシーとソーシャル・ポリシー論に関する研究会 (第 1 回) 議題「研究のすすめ方について (討論)」

4. 26 研究課題Ⅱ 高齢者世帯の家計行動と社会保障に関する研究会 (第 1 回) 議題「研究のすすめ方について (討論)」

4. 27 研究課題Ⅲ 福祉サービスへの労働力配分に関する研究会 (第 1 回) 議題「研究のすすめ方について (討論)」

5. 4 研究課題Ⅳ 社会福祉の課題と展望の研究会 (第 1 回) 議題「研究のすすめ方について (討論)」

同 政策研究会 (第 1 回) 報告内容と報告者「東京都の社会福祉の動き——審議会の答申を中心に」三浦文夫・日本社会事業大学教授

5. 11 定例役員会 (第 178 回)・参与会開催

5. 17 課題Ⅱ研究会 (第 2 回) 報告内容と報告者「わが国の高齢層労働力率の変動要因について」三上英美子・研究員

5. 25 課題Ⅳ研究会 (第 2 回) 報告内容と報告者「社会福祉の課題と展望」三浦文夫・日本社会事業大学教授

5. 26 課題Ⅰ研究会 (第 2 回) 議題「ベヴェリジ体制について (討論)」

5. 27 政策研究会 (第 2 回) 報告内容と報告者「厚生年金加入者間の収益率格差」木村陽子・大阪大学経済学部大学院

6. 1 課題Ⅲ研究会 (第 2 回) 報告内容と報告者「社会変動と福祉サービスへの需要」江見康一・一橋大学教授

同 参与 伊部英男再任

6. 8 定例役員会 (第 179 回) 開催

6. 15 公開研究報告会 (第 21 回) テーマ「21 世紀の社会保障——将来推計による選択肢」報告者: 林英機 (豊橋技術科学大学助教授), 三上英美子 (社会保障研究所研究員), 岸 功 (大正大学助教授), 市川 洋 (筑波大学教授), 司会: 平石長久 (社会保障研究所調査部長)

6. 18 課題Ⅰ研究会 (第 3 回) 議題「ベヴェリジ体制の意義と限界——T. H. マーシャルの所論をめぐって (討論)」

て (討論)」

6. 22 政策研究会 (第 3 回) 報告内容と報告者「国際障害者年の回顧」板山賢治・日本社会事業大学教授

6. 29 課題Ⅱ研究会 (第 3 回) 報告内容と報告者「高齢者世帯における世帯類型別の生活構造——掛川調査を中心に」大本圭野・研究員

同 課題Ⅳ研究会 (第 3 回) 報告内容と報告者「社会福祉行政の現状と課題」長尾立子・厚生省社会局庶務課長

7. 6 課題Ⅲ研究会 (第 3 回) 報告内容と報告者「産業—職業マトリックスにおける福祉サービス」山越徳・雇用職業総合研究所雇用開発部研究員

7. 9 課題Ⅰ研究会 (第 4 回) 議題「ベヴェリジ体制の意義と限界——T. H. マーシャルの所論をめぐって (2) (討論)」

7. 13 定例役員会 (第 180 回)・参与会開催

7. 16 課題Ⅳ研究会 (第 4 回) 報告内容と報告者「児童福祉行政の課題」末次 彬・厚生省児童家庭局企画課長

7. 19 課題Ⅱ研究会 (第 4 回) 報告内容と報告者「年金の収入制限が労働供給に与える影響について」清家 篤・慶応義塾大学助手

7. 22 政策研究会 (第 4 回) 報告内容と報告者「日本大学人口研究所人口推計について」小川直宏・日本大学経済学部助教授

7. 23 課題Ⅰ研究会 (第 5 回) 議題「ベヴェリジ体制の意義と限界——T. H. マーシャルの所論をめぐって (3) (討論)」

8. 13 課題Ⅳ研究会 (第 5 回) 議題「ニード予測の手法について (討論)」

9. 14 課題Ⅲ研究会 (第 4 回) 報告内容と報告者「ヘルス・マンパワー問題へのアプローチ」都村敦子・主任研究員

同 定例役員会 (第 181 回) 開催

9. 20 課題Ⅱ研究会 (第 5 回) 報告内容と報告者「各種統計資料からみた高齢者の就業の実態」桑島靖夫・労働省職業安定局高齢者対策部企画課政策係長

9. 21 政策研究会 (第 5 回) 報告内容と報告者「薬価基準について」内山壽紀・厚生省保険局医療課課長補佐

9. 28 課題Ⅳ研究会 (第 6 回) 報告内容と報告者「ニードの予測について」宇野正道・研究員, 岸 功・大正大学助教授

## 10.12 定例役員会 (第182回) 開催

10.15 社会保障基本問題研究会 (第1回) テーマ及び報告者「社会保障と社会保障論」福武 直 (社会保障研究所長), 「社会保障の根底にある社会理念——福祉国家論再考」 山田雄三 (社会保障研究所顧問・一橋大学名誉教授), 「福祉国家の危機と社会保障の課題」保坂哲哉 (金沢大学教授) (健保会館)

10.21 課題Ⅰ研究会 (第6回) 報告内容と報告者「英国における最近のソーシャルポリシー論について——ヒギンズの比較分析的アプローチ」武川正吾・研究員

10.26~29 社会保障研究所基礎講座 (第18回) 開催 (日本女子会館)

11.4 課題Ⅲ研究会 (第5回) 報告内容と報告者「医療サービスの变化・拡大と看護職員の役割」 岩下清子・日本看護協会普及開発部調査研究係

11.8 課題Ⅱ研究会 (第6回) 報告内容と報告者「高齢者の就労について」孫田良平・日本賃金研究センター代表幹事

11.11 課題Ⅰ研究会 (第7回) 報告内容と報告者「英国における最近のソーシャル・ポリシー論について——福祉の後退と再民営化」 武川正吾・研究員

11.16 課題Ⅳ研究会 (第7回) 議題「一部4章社会福祉供給体制論各章の検討 (討論)」

同 定例役員会 (第183回) 開催

11.24 課題Ⅰ研究会 (第8回) 報告内容と報告者「英国における最近のソーシャルポリシー論——福祉供給の規範的ベースに関する検討」 栃本一三郎・研究員

11.25 政策研究会 (第6回) 報告内容と報告者「“高齢化社会の雇用と生活”《労働省高齢化社会問題研究会》について」 池田克忠・労働省大臣官房政策課課長補佐

11.26 社会保障基本問題研究会 (第2回) テーマ及び報告者「社会保障政策の体系化」小山路男 (社会保障研究所理事・上智大学教授), 「社会保障と財政負担」藤田 晴 (大阪大学教授), 「高齢化と雇用問題」 島田晴雄 (慶応義塾大学教授)

11.30 課題Ⅳ研究会 (第8回) 議題「二部6章社会福祉運営組織論及び一部5章社会福祉の財政をめぐる諸問題の各章の検討 (討論)」

12.1 政策研究会 (第7回) 報告内容と報告者「アメリカ社会福祉教育のあり方について」 伊部英男・

社会保障研究所参与

12.6 課題Ⅱ研究会 (第7回) 報告内容と報告者「スウェーデンにおける高齢者の就労・余暇活動と社会保障について」 三上芙美子・研究員

12.7 合同役員会 (第184回) 開催

同 課題Ⅲ研究会 (第6回) 報告内容と報告者「老人福祉サービスのニーズ測定について」 冷水 豊・東京都老人総合研究所社会福祉研究室研究員

12.14 臨時役員会開催

12.17 課題Ⅰ研究会 (第9回) 報告内容と報告者「英国の最近のソーシャル・ポリシー論——社会サービスにおける公的部門の役割と限界」 平岡公一・研究員

12.20 課題Ⅱ研究会 (第8回) 報告内容と報告者「アメリカにおける年齢差別禁止法」 袖井孝子・お茶の水女子大学助教授

昭 58.1.11 監事 安川正彬再任

1.18 定例役員会 (第185回) 開催

同 専門委員・編集委員合同委員会開催 (東海クラブ)

1.20 課題Ⅲ研究会 (第7回) 報告内容と報告者「アメリカの福祉と医療の動向」 前田信雄・国立公衆衛生院社会保障室長

1.25 課題Ⅳ研究会 (第9回) 報告内容と報告者「課題と展望について」三浦文夫・社会事業大学教授, 小林良二・都立大学助教授

同 顧問 山田雄三再任

1.26 課題Ⅰ研究会 (第10回) 報告内容と報告者「西ドイツのソーシャル・ポリシー論——CDUの社会政策プログラムと労働総同盟の評価」 大谷津晴夫・南山大学講師

1.31 課題Ⅱ研究会 (第9回) 報告内容と報告者「英国高齢者の家計収支」 曾原利満・主任研究員

同 参与 寺尾琢磨 任期満了に伴い辞任

2. 1 政策研究会 (第8回) 報告内容と報告者「診療報酬制度について」 小野昭雄・厚生省保険局医療課課長補佐

同 参与 馬場啓之助再任

2. 8 第17回社会保障研究所シンポジウム開催, テーマ「“活力ある福祉社会”と社会保障——社会保障は国民社会の活力を低下させるか——レポート: 東京大学教授 富永健一 (社会保障と社会変動の関連分析), レポート: 京都大学教授 小池和男 (労働の

- 面からみた活力ある福祉社会), コメント: 法政大学教授 稲上 毅, コメント: 千葉大学教授 地主重美, コメント: 社会保障研究所調査部長 平石長久, 司会 社会保障研究所長 福武 直
- 2.14 課題Ⅱ研究会(第10回) 報告内容と報告者「高齢者と労働福祉」 平石長久・調査部長
- 2.17 課題Ⅲ研究会(第8回) 報告内容と報告者「昭和56年度所得再分配調査について」 府川哲夫・厚生省大臣官房政策課課長補佐
- 2.23 課題Ⅰ研究会(第11回) 報告内容と報告者「英国におけるソーシャル・ポリシー論——イギリスにおける貧困原因の変化とソーシャル・ポリシーの転換」 佐藤嘉夫・東京都老人総合研究所研究員
- 2.24 課題Ⅳ研究会(第10回) 報告内容と報告者「福祉事務所と行政」 三和 治・明治学院大学教授
- 2.25 定例役員会(第186回) 開催
- 3.15 定例役員会(第187回) 開催
- 同 社会保障基本問題研究会(第3回) テーマ及び報告者「戦後社会保障の発展」 伊部英男(参与・年金制度研究開発基金理事長), 「福祉基準の維持のために」 馬場啓之助(参与・一橋大学名誉教授), 「social policy と社会保障——古典的社会保障概念をめぐるの一試論」 平田富太郎(参与・日本社会事業大学長)
- 3.24 課題Ⅳ研究会(第11回) 報告内容と報告者「ニード予測結果について」 冷水 豊・東京都老人総合研究所, 武川正吾・研究員, 平岡公一・研究員
- 同 課題Ⅰ研究会(第12回) 報告内容と報告者「英国におけるソーシャル・ポリシー論——社会的支出と優先順位の吟味」 小山秀夫・厚生省病院管理研究所厚生技官
- 3.25 臨時役員会・参与会開催
- 3.28 課題Ⅱ研究会(第11回) 報告内容と報告者「高齢者世帯の消費構造」 宇野正道・研究員

### 『季刊社会保障研究』への投稿について

- ① 原則として「論文」200字詰原稿用紙80枚程度とする。
- ② 採否については、編集委員会のレフェリー制により、指名されたレフェリーの意見に基づいて決定する。採用するものに関して投稿者に修正を求めることがある。なお、原稿は返却しない。
- ③ 原稿は横書きとし、注・図表は別紙に記し、図表の場合は挿入箇所を本文中の右欄外にご指定ください。なお、注は後部に一括して掲載します。